

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(建築)2016年版、名古屋市長官庁環境政策推進課環境政策推進部マニュアル2016

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)旧八雲アパート土地学生寮	階数	地上4F
建設地	名古屋市昭和区八雲町138番1	構造	RC造
用途地域	第1種低層住居専用地域(過半)、第2種低層住居専用地域	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,000 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年11月10日
敷地面積	4,841 m ²	作成者	
建築面積	1,421 m ²	確認者	
延床面積	4,230 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.7 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B:★★★ C	標準計算 ☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30% ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質			Q のスコア= 3.1		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	Q1のスコア= 3.1	Q2のスコア= 3.1	Q3のスコア= 3.0
LR 環境負荷低減性			LR のスコア= 3.8		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	LR1のスコア= 4.2	LR2のスコア= 3.6	LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他
寮室・共用部共に積極的に開口部を設け、かつ、中庭や吹抜を設ける事で自然光で明るく・開放的な室内環境の創出を目指しています。寮室の窓は、彫が深い開口部とし、夏期の室温上昇を抑制、冷房負荷の軽減を図っています。	
Q1 室内環境 室内にF☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙にするなど、空気質環境にも十分配慮しています。窓を各面に設けて自然の風を積極的に取り入れ、快適な室内環境となるよう設計しています。	Q2 サービス性能 高さ制限による低階高の制約の中、FR板表しの室内空間とすることで、天井高を最大限確保しています。清掃のしやすい仕上を選定し、また寮室以外の諸設備は共用部での維持管理作業を可能としています。
LR1 エネルギー 性能の良い断熱材を用いとともに、床下を全面ビットとすることで、建物の省エネ性能を高めています。LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮しています。	LR2 資源・マテリアル 衛生器具は節水型を選定しています。内装材の多くはグリーン購入法適用資材を活用しています。吹抜や手摺に木材を使用し、森林の持続可能な利用の推進を図ります。
	Q3 室外環境(敷地内) 中庭を設け、学生の多目的な活動に配慮すると共に、低木+高木による積極的な緑化により、敷地内温熱環境の向上に努めています。
	LR3 敷地外環境 分節した構配置と、凹凸のある外壁形状とすることで、長大な壁面を避け、圧迫感の低減を図り、近隣住宅スケールとの調和を図っています。敷地境界付近の地上部には緑化を積極的に行い、敷地外温熱環境の改善に配慮しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)旧八雲アパート土地学生寮

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 2.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。